

[屋根上架台]

地の利を生かす日系勢 活況の陸屋根架台開発

日 本の屋根は種類が多いためか、屋根上用の太陽光架台では日系勢が強い。実際、愛知県西三河地域の屋根技術研究所、栄信、動力の`三河3強`と、新潟県燕・三条地域に本拠や工場を構えるサカタ製作所とスワロー工業、ニイガタ製販の`新潟3強`が市場を牽引。ダイドーハントやカナメ、奥地建産らも存在感を高めている。

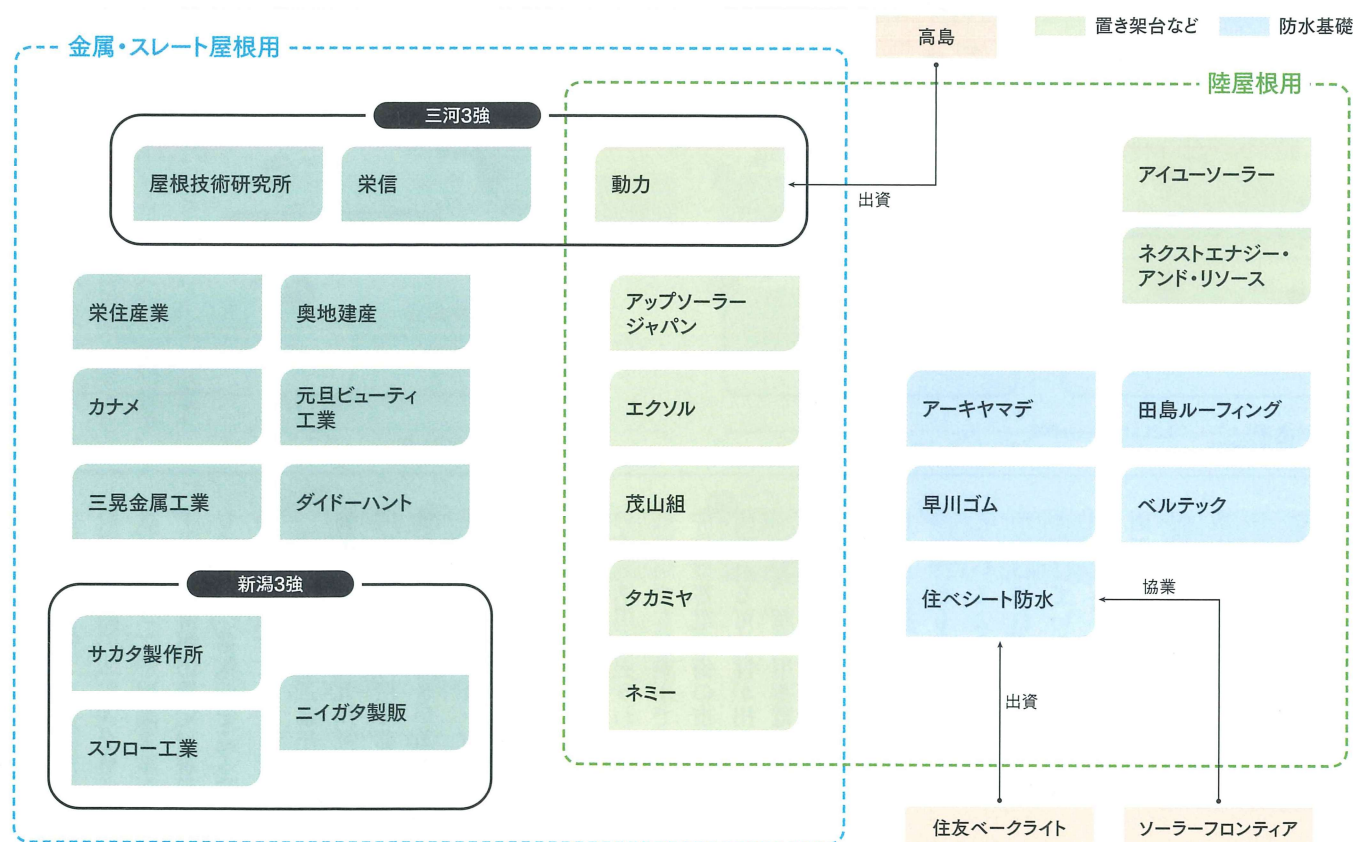
メーカーは製品開発に力を入れており、2024年にスワロー工業が現場の作業効率を高める金具を発売すれば、カナメは1種類の金具で複数の屋根にパネルを設置できる新製品を売り出した。

一方で、陸屋根用架台の商品化に力を入れる動きもある。屋根に穴をあけずに

重しで固定する置き架台では、茂山組や動力のほか、エクソルやネクストエナジー・アンド・リソースが製品開発を強化している。公共案件向けにはアップソーラージャパンや動力が提案を強めており、風の影響を考慮して太陽光パネルが屋上のパラペット(胸壁)より低くなる製品を開

発した。

このほか、防水材料メーカーは基礎を開発し、自社の製品と併せて販売している。アーキヤマデや早川ゴムは2000年代後半の『スクール・ニューディール』政策の頃に製品化したものを自家消費向けに提案し、受注を伸ばしている。



※各社公表資料、ヒアリングなどをもとにPVeye作成